

「 水害を経験して 」

山形県 南陽市立荻小学校 5年 高橋 龍之介<sup>たかはし りゅうのすけ</sup>

水は、ぼくたちが生きるために必要な、大切なものです。でも、時にはぼくたちにこわい思いをさせる時もあります。

ぼくが1年生の夏、朝から雨が続いていました。教室から見てもすごい雨でした。学校が終わって学童へ向う時、なぜかこの日は先生が送って行くことになりました。

「あれ、いつもの道とちがうぞ。」

と思いながら学童へ向いました。車から見たいつもの帰り道は道路が川のようになっていました。学童に着いてから、まどから吉野川を見たら今までに見たことのないぐらいのものすごい川の流れて、大きな木などがどんどん流れていました。ぼくはびっくりして少しこわくなりました。

しばらくすると、家の人を迎えに来ました。いつもはお父さんなのに、この日はばあちゃんのお迎えでした。ばあちゃんがぼくの顔を見るなり、

「龍之介、家が大変なごどになってだ。」

と言われて何がおきたのだろうと思いながらばあちゃんと家に帰りました。

ぼくが家に帰るころは、雨はやんでいました。でも、家のげんかんを見たときいつもの家とはかなり様子がちがってました。そこらじゅうにぞうきんがあつたり、どろのにおいがしたり、家のうらがわには、ぼくの首ぐらいまでの土砂がうまってました。

ぼくの家は山からの沢水が、土や石といっしょに大量に流れてきたのでした。この日はみんなで茶の間でねました。あしたはどうなっているかや、これからのことが心配になりました。でも、お父さんおばあちゃんといっしょにねてとてもあたたかかったし、みんなかたをよせあつてねたので、だんだんこわくなくなってきました。

次の日、朝からお父さんは会社を休んで家の中と外の土砂をかき出していました。しんせきや消防団の人といっしょにどろかきをしてくれました。その次の日からは、ボランティアの人たちもたくさん来てくれて、家がうまっていた土砂を2トントラック10回ぐらい運んだそうです。みなさんが助けてくれたので、どんどん土砂がなくなっていきました。家の外のドロもみんなでかきだしました。家のことをたくさんてつだってくれて、とてもうれしかったです。バケツリレーなどで少人数でもはこんでいてすごいと思いました。

夏休みに入りほぼ毎日消防団かボランティアの人たちが手つだいに来てくださり、休みが終わるころにはようやくもとの家ようになってきました。とても安心できたし、人のあたたかさや助け合う心の大切さがよくわかりました。どこにも行けなかった夏休みだったけどすごくきちょうな経験をしたし、なにより家族が無事で良かったです。

5年生になった6月に、学校で土砂災害の出前授業がありました。DVDで土石流やがけくずれの映像を見ました。とてもびっくりしました。川に大木や大きな石が流れてきて、まわりの森をなぎたおす映像や山のがけがくずれていく様子を見たからです。

「うわーすごくおそろしい。」

とみんなで言いあいました。1年生の時のことを思い出しました。あの時、もしこんなひどい土砂くずれがおきていたら、ぼくたち家族は、どうなってしまったらろうと思いました。

その後、もけいで実際の土砂災害のおこり方などを見て勉強しました。おこるしくみがよくわかりました。もけいでみると、家や木が流される様子がよくわかって、こんなふうになってしまうんだと思いました。

土砂災害は、いつおこるかわかりません。その時に、どんな風にひなんすればいいか、家族みんなです話し合っていきたいです。そして、災害がおこったら、ぼくもみんなを助けられる人になりたいです。